◎所得に対する議定書◎所得に対する租税に関する二重課税の回避のための日本国とインドとの間の協定を

(略称)インドとの租税(所得)協定修正補足議定書

_ ! 五	二 ユー・デリーで署名
~	
\$P\$(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(
協定第一条(1)(a)の修正	
協定第二条(1)(1)の補足 九	
協定第三条の補足	
協定第五条の修正 一九二	

前

目

第三条 第二条

四

条

日本側書簡:	経 済 開	インド側書簡	○インドの経済開発を促進するための特別の奨励措置に関する交換公文	日本側書簡	4 協定第十一条(2の規定に関する了解	3 協定第二条(1)ijaの規定に関する了解	2 協定第二条(1)(i)の規定に関する了解	1 議定書第一条3の規定に関する了解	インド側書簡	書に関する交換公文	○所得に対する租税に関する二重課税の回避のための日本国とインドとの間の協定を修正補足する議定	末 文	第 八 条 批准、効力発生、有効期間及び協議	第 七 条 協定の附属議定書の廃止	第 六 条 協定第十一条(3)もの修正	第 五 条 協定第十条(8の修正
	一九九	一九九		一九八	一九七	一九七	一九六	一九六	一九六		る議定	一九四	一九四	一九三	一九三	一九三

1

ンド

بح

の租税協定修正補足議定

修条協 正(1)定 (a)第 の一

文

国とインドとの間の協定を修正補足する議定書 所得に対する租税に関する二重課税の回避のための日本

日本国政府及びインド政府は、

の 対する租税に関する二重課税の回 間の協定を修正補足することを希望して、 次のとおり協定した。 千九百六十年一月五日にニュー 避のための日本国とインドと ・デリーで署名された所得に

第一条

協定第一条⑴a中次の改正を行なう。

1 2 の 十一号)」を「千九百六十一 第四十三号)」に改める。 「、附加税」を削る。 「千九百二十二年のインド所得税法(千九百二十二年の第 年 の所得税法(千九百六十一 年

3 百六十四年の法人超過利潤税法(千九百六十四年の第七号) に基づいて課される超過利潤税」を加える。 「(以下「インドの租税」という。)」の前に「並びに千九

協定第二条⑴⑴糾の次に次のように加える。

Protocol Modifying and Supplementing the Agreement between Japan and India for the Avoidance of Double Taxation in respect of Taxes on Income

of India, The Government of Japan and the Government

Avoidance of Double Taxation in respect of Taxes on Income, signed at New Delhi on January 5, 1960, Agreement between Japan and India for the Desiring to modify and supplement the

Have agreed as follows:

Article I

Article I shall be amended as follows: Sub-paragraph (a) of paragraph (1) of

ing it by the expression "the Income-tax Act, 1961 (43 of 1961)", Income-tax Act, 1922 (11 of 1922)" and replac-1. By deleting the expression "the Indian

۲. tax", and By deleting the expression ", the super

"Indian tax")." the expression "(hereinafter referred to as tax Act, 1964 (7 of 1964)" immediately before tax imposed under the Companies (Profits) Sur-By inserting the expression "and the sur-

Article ΙΙ

Sub-paragraph (i) of paragraph (l) of Article II shall be amended by inserting the (iii) thereof: following immediately after sub-paragraph

(iiia) を有するものとされることはない。 学的調査を行なりことのみを目的として事業を行なり一定 準備的 '場所を保有する場合には、 方の締 又は補助的 約 国の な活動 企業は、 としての広告、 営業又は事業におけるもつばら 他方の締 約国内に恒久的施設 情報の提供又は科

(4A) 協定第三条仏の次に次のように加える。 方の 締約国の 企業が 他 方の締約国

条の補足

内に有する恒久的 いかなる利得も、 て行なら単なる商品の購入に限られる活動 施設に帰 当該一方の締 せられることはな : 約国の企業が他方の締約国 からの輸出を目的と によつては、

四

条の修正 協定第五

2 1 1 法(千九百六十一年の する議定書の署名の日に有効である千九百六十一年の所 四十四条の 二十二年の 協定 協定 協定第五 セントに代えて五十五パーセ 第五 の署名の日に有効である前記 1 一条(3)中 A及び第四十 条の規定を適用するにあたり、 ンド 所得税法 「との協 第四十三号)第百七十二条」 四条のB」を「この協定を修正 (千九百二十二年の第十一号)第 定の署名の日に有効である千九百 ントとする。 一の所得税法第四十四条の 軽 減率は、 五 得税 補足 十パ

Article III

character in the trade or business of the

ties solely of a preparatory or auxiliary or for scientific research, being activiadvertising, for the supply of information place of business solely for the purpose of a permanent establishment in the other Contracting States shall not be deemed to have "(iiia) An enterprise of one of the Con-

tracting State if it maintains a fixed

enterprise."

the following immediately after paragraph (4): operations which are confined merely to the the other Contracting State through or from one of the Contracting States situated in "(4A) No profit shall be attributed to a permanent establishment of an enterprise of Article III shall be amended by inserting

fifty-five Agreement, the rate of reduction shall be purchase of goods for the purpose or export In the application of Article V of the from such other Contracting State." per cent instead of fifty per cent. Article IV

by deleting the expression "Section 44A and placing them, respectively, by the expression occurring in paragraph (3) thereof, and re-"Section 44C of the said Act, effective on 44B of the Indian Income-tax Act, 1922 (11 of "Section 172 of the Income-tax Act, 1961 (43 the date of signature of the present Agreement" the present Agreement" and the expression 1922), effective on the date of signature of Paragraph (3) of Article V shall be amended 1

ン

۴ ح

の 租 脱税協 定 修正 補足 鎌定 正条協 (a)定 の作

える。

協定第十条aの初めに「第三条4の規定を留保して、」 第五

条

百七十二条」に改める。

o」を「同議定書の署名の日に有効である前記の所得税法第

協定第十一条③回を次のように改める。 第六条

の一協 修条定 正(3)第

(b) +

(b) 特別の奨励措置であつてこの協定を修正補足する議定書の の額は、 れなかつたと仮定した場合に支払われるべきインドの租税 導入されることがあるものに従つて軽減又は免除が行なわ 署名の日に実施されているもの又は現行の措置の修正若し の範囲について合意を行なりことを条件とする。 締約国の政府が前記の措置により納税者に与えられる特 はこれへの追加としてインドの租税に関する法令に将来 aの控除の適用上、インドの経済開発を促進するための 納税者によつて納付されたものとみなす。ただし、

第七条

千九百六十年一月五日にニュー・デリーで署名された所得に

"Section 172 of the said Act, effective on the date of signature of the present Protocol". of the present Protocol" and the expression of 1961), effective on the date of signature

Article V

at the beginning of the provisions thereof. provisions of paragraph (4A) of Article III," Paragraph (a) of Article X shall be amended by inserting the expression "Subject to the

一を加

Article

the following: Article XI shall be deleted and replaced by Sub-paragraph (b) of paragraph (3) of

measures, provided that an agreement is of the scope of the benefit accorded to the made between the two Governments in respect tion of or in addition to the existing future in the Indian tax laws in modifica-Protocol or which may be introduced in taxpayer by the said measures." on the date of signature of the present economic development in India, effective incentive measures designed to promote or relieved in accordance with the special paid if the Indian tax had not been reduced taxpayer the amount which would have been shall be deemed to have been paid by the ferred to in sub-paragraph (a) above, there "(b) For the purposes of the credit re-

Article VII

o f Protocol which constitutes an integral part Agreement between Japan and India for

書

の廃 廃 止 書

0 対する租税に関する二重課税の回避のための日本国とインドと 間の協定の不可分の一部をなす議定書は、 廃止する。

第八条

- 1 きる限りすみやかに東京で交換されるものとする。 との議定書は、 批准されなければならない。批准書は、 で
- 及有分別 力発 協期生、効 議間、効 2 を生じ、 との議定書は、 かつ、 批准書の交換の日の後三十日目の日に効力
- (i) する各賦課年度について、 1 ンドにおいては、千九百六十七年四月一日以後に開始
- (ii) する各課税年度について、 日本国においては、千九百六十六年一月一日以後に開始
- 適用するものとする。
- 3 の適用が開始する日から五年の期間中適用される。との期間 て延長するため相互に協議する。 の満了にあたり、 との議定書は、協定が有効である限り効力を有する。 第四条1の規定は、 両締約国の政府は、 協定が有効である限り、 との期間を合意によつ との議定書 ただ

九四

Taxes on Income, signed at New Delhi on January 5, 1960 shall be abrogated. the Avoidance of Double Taxation in respect of

Article VIII

- changed at Tokyo as soon as possible. the instruments of ratification shall be ex-The present Protocol shall be ratified and
- be applicable change of instruments of ratification and shall on the thirtieth day after the date of ex-The present Protocol shall enter into force
- after the 1st day of April, 1967; and of any assessment year commencing on or after the 1st day of January, 1966. of any taxable years beginning on or on the part of India, in respect on the part of Japan, in respect
- aforesaid Agreement remains in force, proforce as long as the aforesaid Agreement remains in force. However, the provisions of 3. The present Protocol shall continue in agreement. view to extending further such period by mutual Governments will consult each other with vided that on expiry of such period, the two years from the date on which the present Protocol shall be applicable for a period of five paragraph 1 of Article IV of the present Protocol shall become applicable as long as the
- purpose, have signed the present Protocol. the two Governments duly authorized for the IN WITNESS WHEREOF, the representatives of

以上の証拠として、

両締 約国

の政府の代表者は、

各自の政府

から正当に委任を受けて、この議定書に署名した。

末

日本国政府のために 法眼晋作

インド政府のために

P・O・セティ

For the Goverment of Japan: (Signed) Shinsaku Hogen

For the Government of India:

(Signed) P. C. Sethi

所得に対する租税に関する二重課税の回避のための日

本国とインドとの する交換公文)

間

!の協定を修正補足する議定書に関

解関の条協 す規(1)定 る定(i)第 了に(ii)二 する了解 規定に 関 の 議定書第

インド側

インド側書簡

(訳文)

政府に代わつて次のことを申し述べる光栄を有します。 ドとの間の協定を修正補足する議定書に言及し、 得に対する租税に関する二重課税の回避のための日本国とイン 1 書簡をもつて啓上いたします。本大臣は、 議定書第一条3の規定に関し、 本日署名された所 かつ、 インド

0 九百六十四年の法人超過利潤税法による当該租税のインド 導入以来修正前 超過利潤税は、 の協定の対象となつている。 修正前の協定第一 **条** (2) の規定に基づき、

2 協 定第二条⑴⑴⑴の規定に関し、

据付けを助けるため当該 該販売に付随して設備又は機械の当該他方の締約国における 合において、 の販売について他方の締 よりな活動 その規定の適用上、 当該 は、 恒 久的施設を構成するものとされない。 方の締約国の居 一方の締約国の居住者が設備又は機械 他 約国の居住 方の締約国におも 者 住者に雇用された者が当 からの注文に応ずる場 むくときは、 そ た

(Indian Note)

New Delhi, April 8, 1969

Excellency,

ing on behalf of the Government of India. which was signed today and to state the follow-Double Taxation in respect of Taxes on Income, tween India and Japan for the Avoidance of Modifying and Supplementing the Agreement be-I have the honour to refer to the Protocol

I of the Protocol: With reference to paragraph 3 of Article

ment: of paragraph (1) of Article fits) Surtax Act of 1964. visions of paragraph (2) of Article I of the introduction in India by the Companies (Pro-Agreement before modification, since its Agreement before modification under the prothe surtax has been the subject of the With reference to sub-paragraph (i)(ii) II of the Agree-

sisting in the installation of the plant or ceed to that other Contracting State for asfirst-mentioned Contracting State should proor persons employed by the resident of the sale of the plant or machinery that a person or machinery to a resident of the other Conwhere a resident of one of the Contracting tracting State and it is incidental to the States fulfils an order for the sale of plant for the purposes of the said sub-paragraph,

関の条協 す規(1)定 る定(j)第 了に(jia)二

協定第二条(1) (i) (辿の規定に関し、 又はそのような活動について生じた費用が注文品の販売総額

十パーセントをこえる場合は、この限りでない。

だし、そのよりな活動が九十日をこえる期間行なわれる場合

3

定(iiia) の場所を保有する場合には、 に定められた目的以外の目的のために事業を行なり他の一 その規 定の適用上、企業が当該他方の締約国内に同条⑴⑴ その規定は、 適用されない。

協定第十一条②の規定に関し、

4

ない、 過利凋税から控除を行なり。 法人である場合において、 いては、まず当該法人がインドで支払り所得税から控除を行 その規定の適用上、インドの居住者が超過利潤税を支払り なお残額があるときは、 インドの租税からの税額控除につ 当該法人がインドで支払り超

を確認されることを要請する光栄を有します。 本大臣は、 さらに、閣下が日本国政府に代わつて前記の了解

以上を申し進めるに際し、

閣下に向

かつて敬意を

千九百六十九年四月八日にニュー・デリーで

表

します。 本大臣は、

P • C t ティ

> machinery therein, such activity shall not be deemed to constitute a permanent establishment activity are more than 10 per cent of the total ninety days or the expenses incurred on such unless it is carried on for a period exceeding

of paragraph (1) of Article II of the Agreesale price for the order. With reference to sub-paragraph (i)(iiia)

any purpose or purposes other than the purposes specified in the said paragraph. business in that other Contracting State for enterprise maintains any other fixed place of provisions thereof shall not apply where the for the purposes of the said paragraph, the

XI of the Agreement: With reference to paragraph (2) of Article

balance, if any, against the surtax payable by payable by the company in India and, as to the allowed against Indian tax shall be allowed in the first instance against the income-tax which the surtax is payable, the credit to be where the resident of India is a company by for the purposes of the said paragraph,

Э standing on behalf of the Government of Japan. Excellency to confirm the foregoing under-Accept, Your Excellency, the assurances of I have further the honour to request Your

highest consideration.

(Signed) ۳. **C**. Sethi

1 ン

۴

インド駐在日本国特命全権大使 **眼晋作閣下**

院文)

(日本側書簡

書簡をもつて啓上いたします。本使は、本日付けの閣下の次

の書簡を受領したことを確認する光栄を有します。

(インド側書簡

とを確認する光栄を有します。 本使は、さらに、

前記の了解が日本国政府の了解でもあるこ

以上を申し進めるに際し、

閣下に向かつて敬意を表

千九百六十九年四月八日にニュー・デリーで

します。

本使は、

インド駐在日本国特命全権大使 法眼晋

作

インド政府大蔵省担当国務大臣 P • C セテ ィ閣下

(Japanese Note)

New Delhi, April 8, 1969

Excellency,

ceipt of Your Excellency's Note of today's date which reads as follows: I have the honour to acknowledge the re-

"(Indian Note)"

standing of the Government of Japan. the foregoing understanding is also the under-I have further the honour to confirm that

my highest consideration. Accept, Your Excellency, the assurances of

(Signed) Shinsaku Hogen

Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of Japan

Minister of State in the Ministry of Finance, His Excellency Mr. P.C. Sethi,

New Delhi

Government of India,

Plenipotentiary of Japan to India. His Excellency Mr. Shinsaku Hogen, Ambassador Extraordinary and

インドの経済開発を促進するため 「する交換公文) インド 側書簡

0)特別

0

奨励措

置に

第十 二重課税の回避のための日本国とインドとの間の協定(本日署 定を修正補足する議定書の署名の日に実施されているもの」で ドの経済開発を促進するための特別の奨励措置であつてこの協 第四十三号)の次の各条に定める措置が前記の項にいり「イン である千九百六十一年のイ 名された同協定を修正補足する議定書によつて改正されたもの) 五日にニュー・ あることを両政府の間で合意することをインド政府に代わつて 案する光栄を有します。 書簡をもつて啓上いたします。本大臣は、 条3的に言及し、 デリーで署名された所得に対する租税に関する かつ、 ンドの所得税法(千九百六十一年の 前記の議定書の署名 千九百六十年 日の日 ĸ ! 有効

(i.i) 共団体に づいてインドの産業的事業に貸し付けた資金 関するもの、 支払われ 第十条 融機関 (15) 貸し付けた資金に係るその非居住者の .るものに対する租税の免除に関するもの) の租 (iv) (a) 税の免除に関するもの並びにい 非居住者がインド政府又はインドの地方公 の利子に係るそ 租 非居住者が原 税の免除に

第十条⑷(インド政府が告示した債券の利子で非居住者に

(Indian Note)

Excellency,

New Delhi, April 8, 1969

and Supplementing the Agreement which was 5, 1960, as amended by the Protocol Modifying Avoidance of Double Taxation in respect of Agreement between India and Japan for the Taxes on Income, signed at New Delhi on January (b) of paragraph (3) of Article XI of the I have the honour to refer to sub-paragraph

tocol" referred to in the said sub-paragraph on the date of signature of the present Propromote economic development in India, effective "the special incentive measures designed to of signature of the aforesaid Protocol are shall agree that the measures set forth in the Government of India, that the two Governments signed today and to propose, on behalf of the (43 of 1961) of India, effective on the date following sections of the Income-tax Act, 1961

Government of India; resident on any security notified tion from tax on interest payable to a non-Section 10(4) - relating to exemp. by the

spect of interest on moneys lent by it to an approved foreign financial institution in rement or a local authority in India; (b) an respect of moneys lent by him to the Governexemption from tax of (a) a non-resident in industrial undertaking in India under a Section 10 (15)(iv) - relating to

1

ン

۲

۷

の

租

税

協 定

臣

Œ

補 足

畿 定

るその非居 の産 料 業的事 :又は設 住者の 業に貸 備 及 \mathcal{C} 租 î 機 税 械 付けた資金又は供与した信 の免除に関するもの) Ø 外国 K お ける買 付けの た 用 の利子に係 めに 1 ン ۱,

| 控除証明書の記載額に係る租税の免除に関するもの)| ||何||第十条四||第二十二章Bの規定に基づいて与えられる税額

- 図 第三十三条(船舶、機械又は設備に関する開発割戻し控除
- 関するもの)() 第三十三条のA(茶の植付け又は移植に関する開発控除に)

K

関するも

の

- (vi) n へでな る場合に 第五 付に + 関するもの 法 四 おい 条 人に対し 0 7 A(承認を受けた事業に譲渡収益 $\overline{\tau}$ インドの市民でない個人又はイ 行なわれる当該譲 渡収益に対 が再投 ・シド つする 政資さ 租 の法
- (vii) パー 法 人の 第八 て同条 セントを控除することに関するもの) 十 総所得の算定 に代わつて適用され 条のE及び千九百 上特定 優先産業 六十八 る第八十 (年四 小からの 条 月 Ø 一日以後 利得及び I(ある 0)収益 期 種 0 間 内国 の K
- (viii) 7 同条に 第八十 船舶又は tt 四条 K わつて適 関 ホテル 及び千九百六十八 ける 用され からの利得及 関 る第八十 するも 年四月一日 CF 収益に対する租 条のJ(適 以後 格 の な産業的事 期 税の免除 間 K つ
- (ix) て同条に代 第八十五条 船舶又は わつて適 及 ホ びチ テ ル 一用され 九 からの利得及び収益に係る配当に対する 百六十八年四月 る第八十条 へ の K 一日以後 (適格 の期間 な産業的事 VC つい

- agreement; and (c) a non-resident in respect of interest on moneys lent or credit facilities allowed by him to an industrial undertaking in India for the purchase outside India of raw materials or capital plant and machinery;
- (iii) Section 10 (28) relating to exemption from tax on the amount of tax credit certificates granted under the provisions of Chapter XXII-B;
- (iv) Section 33 relating to development rebate in respect of ships, machinery or plant;
- (v) Section 33A relating to development allowance for planting or replanting of tea bushes;
- (vi) Section 54A relating to refund of the tax on capital gains to an individual who is not a citizen of India or to a non-Indian company where the capital gains are reinvested in approved investments;
- (vii) Section 80E and Section 80I (which replaces Section 80E with effect from April 1, 1968) relating to deduction of 8 per cent of profits and gains from specified priority industries in computing the total income of certain domestic companies;
- (viii) Section 84 and Section 80J (which replaces Section 84 with effect from April 1, 1968) relating to exemption from tax of, or deduction in respect of, profits and gains from eligible industrial undertakings or ships or hotels;

 (ix) Section 85 and Section 80K (which replaces Section 85 with effect from April 1,
- (ix) Section 85 and Section 80K (which replaces Section 85 with effect from April 1, 1968) relating to exemption from tax of, or deduction in respect of, dividends attribut-

租税の免除又はこれに関する控除に関するもの)

とを提案する光栄を有します。 る各賦課年度について適用される両政府間の合意を構成するこ 日に効力を生じ、 のことを確認される閣下の返簡が、 (x)本大臣は、さらに、 法人から受け取るある種の配当に関する控除に関するもの*)* ンドの法人又はインド内で配当を宣言 ついて同条に代わつて適用される第八十条のM(法人が、イ 第八十五条 0 かつ、 A 及び千九百六十八年四月 との書簡及び日本国政府に代わつて前記 千九百六十七年四月一日以後に開始す 前記の議定書の効力発生の しかつ支払りその他の 一日以後 の期 間 K

表 します。 本大臣は、 以上を申し進めるに際し、閣下に向かつて敬意を

千九百六十九年四月八日にニュー・デリーで

• ティ

P C 乜

インド駐在日本国特命全権大使 眼 晋作閣下

> dustrial undertakings or ships or hotels; able to profits and gains from eligible in-

declaring and paying dividends within India. of certain dividends received by a company 1, 1968) - relating to deduction in respect replaces Section 85A with effect from April from an Indian company or any other company I have further the honour to propose that, Section 85A and Section 80M (which

cable in respect of any assessment year commencing on or after the first day of April, force of the aforesaid Protocol and be applitween the two Governments which shall enter foregoing shall constitute an agreement being, on behalf of the Government of Japan, the this Note and Your Excellency's reply confirminto force on the date of the entry into

my highest consideration. Accept, Your Excellency, the assurances of

(Signed) P. C. Sethi

His Excellency Mr. Shinsaku Hogen,

Plenipotentiary of Japan to India

Ambassador Extraordinary and

日本側 書簡

(院文)

の書簡を受領したことを確認する光栄を有します。 書簡をもつて啓上いたします。本使は、本日付けの閣下の次

インド側書簡)

光栄を有します。 について適用される両政府間の合意を構成することに同意する 書簡及びこの返簡が、 本使は、日本国政府に代わつて前記のことを確認し、閣下の かつ、千九百六十七年四月一日以後に開始する各賦課年度 前記の議定書の効力発生の日に効力を生

千九百六十九年四月八日にニュー・デリーで

します。

本使は、

以上を申し進めるに際し、閣下に向かつて敬意を表

インド駐在日本国特命全権大使

服野 作

インド政府大蔵省担当国務大臣 P C t テ オ関 下

(Japanese Note)

New Delhi, April 8, 1969

Excellency,

date which reads as follows: ceipt of Your Excellency's Note of today's I have the honour to acknowledge the re-

"(Indian Note)"

or after the first day of April, 1967. agree that Your Excellency's Note and this on behalf of the Government of Japan and to respect of any assessment year commencing on the aforesaid Protocol and be applicable in force on the date of the entry into force of the two Governments which shall enter into reply shall constitute an agreement between I have the honour to confirm the foregoing

mу highest consideration. Accept, Your Excellency, the assurances of

(Signed) Shinsaku Hogen Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of Japan to India

Government of India, New Delhi. Minister of State in the Ministry of Finance, His Excellency Mr. P.C. Sethi,

<u>=</u> 0 =

へ 参

ある。

課税の回避のための日本国とインドとの間の協定(条約集第一四一四号参照)を修正補足するものでこの議定書は、一九六〇年一月五日にニュー・デリーで署名された所得に対する租税に関する二重